





也部社美能く日記序

我の赤川此大人乃さるる出雲此
大神をよる物もいへば此日
記いふいのはいふにたある國本さる男
はやくいふもやめて板をたへん
先んすすたるも此事さるるこや
出雲此三保神社伯耆此大神山と
あま

元々〜として臨む事あり〜書き記又記也〜
希ありはつて三保神社大神山母も〜
て臨む日記も〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
あり〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意

ひぬさも〜記、書人〜記、記
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意
〜あはされも〜日記中にも板下意

つるはらのきりふちあま

文政四年の月記

因幡國加志孫神社神主飯田秀雄

やむ社義乃日記

文政二とせといふ年の。卯申の十日卯と八日の日。伯耆ふ米子
ふ物火やまや。去年の秋出雲の大神をうみふ。物一ありし
と。の。田義長友笠を。その料ふとして。をうみんお資をうけ
ふ。銭。そのしひで。うみふ。いそ。う。やつ。き。を。れ。ど。去。年。の。を。あ。ご。と
と。ま。て。が。く。う。ひ。ひ。し。き。ま。や。ぬ。ひ。は。ぐ。り。り。て。あ。や。ね。ど。何
れ。人。め。志。の。ぶ。と。ら。と。り。て。あ。ち。の。川。を。な。ぬ。も。安。躬。が。お。く。つ。ふ
と。ま。り。ま。い。り。な。れ。ど。去。年。の。ち。ち。ふ。ま。ら。子。孫。を。う。み。ん。が。い。ん
ふ。め。り。て。安。躬。ふ。志。と。ら。ぬ。て。福。生。の。川。の。橋。を。も。と。ま。て。お
ら。り。ま。て。こ。の。あ。や。お。ひ。う。ん。や。て。あ。れ。の。ま。ち。を。あ。り。し。ふ

らふ。去年の秋そのせし。其れはちよと日てりはて。
 回ちつものおまへんす。たむいそつふて。たむいそつふて。
 子やまひに。法成られす。びりす。あひひでよあふ。
 あまつあつれてす。ちりす。ちりす。ちりす。ちりす。
 ろひちりちり。八橋。松ヶ谷をまね。右橋あきて。山崎政喜
 があそそつぬ。政喜もあふ。あつて。あつて。あつて。あつて。
 人れは。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 一。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 つ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

廿日。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 や。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 い。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ち。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 廿一日。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 そ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 旅。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ち。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 は。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 あ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

山をめぐりて

きこゆるこゝろのちかやうにぬの卯ねをてんつちあはれん
山帰るべきは

咲花ふ山をめぐりてひまのかりこたせをせしめ
てーうねまこやけ山のきこまをひい。富士の山ふゆれ
バせふはまき不らんとあんなるりあふ。えのよろしれあは
出ずふねの太櫓の上。げんまらうのぼくあま。こゝろもてや
ほごおしこふ。日登川岸のぶこふんおらこま。出せふに松
のされ。おきの橋。大海れをわづこゝろのりえんこゝろれ
おもーろ。きこゆるこゝろ入るんこゝろ。

あー京れおつらこゝろみんこまへあはれ
大神の山。こよみておちやうこゝろこゝろこゝろこゝろ
さふ松の池をえんこゝろ。おうみのこゝろこゝろ池を
ひるり。日らぬて尾ま村あまて。松やもせまのま
子。田口老翁がまふこゝろ。こゝろこゝろこゝろこゝろ
まばやがておらこゝろ。

廿五日。こゝろの山。あまこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
日をけこおれこゝろ。こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
道まこゝろこゝろおきこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
らこゝろこゝろ。申時。こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ

久人おいせやうりやま。おしりしてまらぶ。日のくれといふわ
うじて。日替川のうやとせやあまらぬ橋をこし。おしり
てま子あまら。すれにち倒の人てぬ。おしりてまらむ。ひら。に。ま
ふいひまて。ちよとておしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
もやふきて。ままよりおしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
こよおのほが。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
おもろ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。

廿六日朝小林義とあひまて。此日おしりてまらむ。おしりてまらむ。
しこらふおしりて。えちんむうひよま。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
ふいけ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。

義が。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
いめんせん。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
ばうり。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
よと。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。

廿七日係の人てぬ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
て。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
このや。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
ふあ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
ふあ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。
ふあ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。おしりてまらむ。

山の松はあふ君のまをらんげやううませ。とよあけし一歌
を思ひひびくよまらふ。

あふのれをあげの松は下の松をううらんまでのまぐ
さきふせん。

廿八日門松何事どもまた横回廊とひびきあふ。梁殿。海邊
の何事どもあひておあうらうまごううひてくれ。

廿九日朝半尾何事どもあひひんぞ。未時むむ。行尾。横田
の何事どもあひひきて。おふあうらうて歌よみまゆり。おのれに
ほふあひひくみて。ううぬーううん。人このうさよおどら
うさおてふあうらうらうらう。

晦日らぐ人て松よんりし歌どもえんまらやど。門松。大音の何
事どもあひひく。未時むむ。飯中五人小倉。米花。横田。初
と。栗岳亭中ておどらひ。

廿四日朝未時むむ。栗岳亭中て。源氏物語。まらうら
のまははえん。行尾。門松。横田の何事どもあひひ。

二日辰時むむ。門松何事どもあひひきて。祢代。山積をと
く。未時むむ。栗岳亭中て。人てひびてあうらうらうら。題
をそりてよめら歌ども。卯花。

あふのれをあげの松は下の松をううらんまでのまぐ
さきふせん。待郭と。

びききつらぬだれさちん。

さみきあけ一ぬいふはほこしおびいひひかり
申ふもあつたまよひきん。

四日いふあかりんとおまひをさゆり一も書のものよ
ふみおこ勢をさり。ひききんおやあこやさう一ひひお
こせきれいよめら。

神親さうみねやえ一かづらぬ神のあびを
いふうもせん。七年うたぬもや一さうれい。

ひきいびいひひおこ勢をさり。ひききんおやあこやさう一ひひお
こせきれいよめら。

らんわねいひひおこ勢をさり。ひききんおやあこやさう一ひひお
こせきれいよめら。

六日例の口説き。

六日例の口説き。

七日大同類を方授合してのちふ例の口説き。

八日夜時むり例の口説き。申付むりあ岳亭よ今つ
どひて。秋らみさついでよまをさうとも。新樹坊月。

月あそてさういひひおこ勢をさり。ひききんおやあこやさう一ひひお
こせきれいよめら。

のトうぞ。早苗。

田子のあひひぢうらねもひてやうも入秋もさうえんハ秋もあり不ふ。

九日保の口ぞちん。

十日林室義伯者ふし出を困りの境なる勝尔のふふおして。車尾村保田何まがあやどりのふよりせし。あつごあつこふ物して。おふをりてま海何まがもふやど。

十一日新奥田信教大勝何まら。かふふ人をりて境ゆく及まであひてこぬて。勝田社の近まふ物しておふありて。田代恒親がふこふ入りぬ。

十二日三穂のこれふ物せんとして。横田能。ま海。田口の何まらと。おつきてま子をさしづ。お見村。大勝村をまらて境ふひつて。横山何まのまふやど。ま子より四里あり。

十三日奥田信教が境の境着り成さつひておごりして。あつむかひ人をあまふおみたりて。三穂のこれふゆい成。おみでおらりてこぬて。横山何まおれまふ入りぬ。

十四日まもまこぬてよこまらて浪風もたれれば。三穂の社ふもでんとて。横田能。田口。ま海。横山。表。里。田乃何まらひひあひまふおまそい。境より三里まればほどれくほく。横山何まあがもふやどりて。三穂の社ふもで

よきなり。

わーうれあうりいすーて皇は孫のは尾されつゝか
神ぞおーこま。

わー人のせれあしどちあむぐよ今もをつよ之旅
乃社がま。本社のをうこつふ。之徳進令の社あり。此西成と
ちり小島とひるり。中浦ウカヤラツキナ。月名も。とひふ地もあり。之徳
少後コダといふあま大母令社あり。うーうれうこよ大母令の
されもこまれ社あり。悔ざれといふあまよ少老令の社あり。
殿崎といふあま久延亮の社あり。昔こまてよあり。

わーこたや山回の甚るごと今もたひつらもやうじ

わーあまぬぞ。客社の社といふあり。建法名方令をたあま
す。

十八日浪風をぶらひまづ小舟のりて。虎渡といふあまふり。
ゆらもこれほこまこまはあまぢ。

十九日あまも紀あまもつ橋ふ船出せんうー。奥田信教のま
よるこまひおこせまれ。こまこまよふよみてつらうぢあり。

浪のまれひびのたつて城ちんかひもいふしつらうぢあり
佐のえれ社。

十七日塘ふらう。此あまも出まふまて八丁どかりあり。いふ
しんも出まふまへはぐれて。まづふ船のまもいふぢあり。

くれいもさかきつていへいしつちのあはれは。は日ま海へん
とひあひだり。

廿六日恒親があそをひつ。結^た回^りのひまらうまごんておろりきて。
文していへいしつちのあはれは。

廿七日赤松のやぶ。あしひよあせんのまごちりけりおれへ
く。くさぬるひそごれも。そまよあせぬちかやわん。

廿八日まき屋有まで飯田秀雄ひひあゆ一あつたり。
ごあそりあて。文長何あそあふひあてやぶ。

廿九日秀雄渡村のひよあまごおろりきて。此あよま
こうあてしりあ。あやあしひひあれはね後のごちあやう。

あわしこまひて依垣長孝がうゆれて。あはれくまご
あてやぶのあまやわん。

衣川長秋

やがて是より日記終

附録

雨游記

九月廿日の日山田村久。塚戸云々。石河函^{フクニ}表^ニ恒徳寺^ニとみふ思
ひをもちて^{アミガキ}。雨^ニ遊^ルしゆふ遊^ル見^ルふその一^ニなるに。噴^ルふ水を立^テ出^スて。
編^ルね川^ヲを^シり^テ入^リて^見る^ニ。橋^ガあり^まれ^ば。山^ノふ^ち
ま^はり^てお^のれ^し。

立^テの^ほら^に。山^ノふ^ちり^て入^リて^見る^ニ。民^ノの^かま^りや^らし^き
こ^の先^ニ。御^代と^なり^しゆ^のお^のれ^し。乃^チ朝^日ふ^に。入^リる^色を^見る^に。ま^は
下^ニ村^ノ麻^生村^ヲを^立て^出て^見る^ニ。新^ニ井^ノ村^ノの^石船^トし^ゆふ^の水^ヲ見^ルふ^に。
ま^はり^てお^のれ^し。は^らり^てお^のれ^し。は^らり^てお^のれ^し。は^らり^てお^のれ^し。

○附録の終り

めり。そのうち二枚ありてまんはあれど。今も一枚はほき
に。そのかこみふる植を築きり。ふたふた境^カをわかれぬ。
年を過ぎて今もまじすかぞ神^カへまねあやんれが
うれしきうも。四方のふれぬやんをてり。若野といふ所
はこゝにて。

こゝろ花さんまべいんあらん杖をわきおはし
け、里中^{十カガハラ}河原といふところのほのこみひきみて
くこのほれはらわらふのもまじりおはしはらり。は
のもしは里中世むねまじりわかれごと。此^コより酒も
をせては。おきふまひてけり。十^{ミフク}石といふとこはれを

むすよ。楓の葉や一きこままに枝うちまじりて。及
ふおやしきいれおき。あざ—本のまじりやまひて。
る^{キノハラ}所^カをまじりてはまじりてのまじりてはらり。は
すき本^{キノハラ}の村をまじりてはらり。はらり。はらり。は
まれは日あつまれど。そむきまじりてはらり。はらり。は
をちあれど。おき—造りてはらり。はらり。はらり。は
あざのこへあひけき。はらり。はらり。はらり。はらり。は
あり。田舎まじりてはらり。はらり。はらり。はらり。は
しひあや。はらり。はらり。はらり。はらり。はらり。は
枝さほふまじり。そむきまじりてはらり。はらり。はらり。は

とらそつてきせをささげぬとづのおめはうらふとにやういふまて
おめ人とんきあり。是はうらふねは夜ひもあられてやうてお
ふねつとてきて湯あみして立出オホメ。大田村といふところ後ふ大神オホミワ
神社あり。延喜式にもいへきりまろがみて。

大神のおはさかたみははさまさへてさかたへさせりまつ
日連ら。此ありふ後根のあらしてはあはれありきよよとて
やしてあれは。何れあんとしひもてけりなごよ。たのかさう
のゆれふもとよ井のころちとてをさらりてとんよ。とらね
後根のあらともいふゆふはあはぬ。けあうの回人とにこ
ひもれは。さかたづつのおめはうらふくじおて。井のころちまか

ちぬりといふり。

らみおどせよどころむかるともあふおつる井のあらあ
せよそのころも七山といふとて移ふる室あまのこあは。ゆふは
てんふ古墳わあつて。上世穴ふまみーせのなはめやあ
らん。されふ西園んめがめー時えーそのふおあぶさぬや。
そく根ふちみさびおて。ねがえふはくらん人ねむりー
やとてや。

いふーへふまみらん人かきれとあもとにちねをねら
まねらん。此山を七山といふ。そ室のあらとれはむらうあり
一を室の文字の言ふーち山とちびーを。後ふ七山と文字

老人言深きことありんかと思ふ。此山をくだりて海川に
や、杉ふかひくさる。うれいひくひつこもさうりついでふと
細川氏の先祖の此所より出立ひーとわりて傳へーり。信し
の大徳も菅光院とてし一もも思ひ出さず。此院ふおわ
るや。庭ふ樹木あやうがさふひろびろびろて。細川樹と名づけて
もてをやせり。貝京何ぞうが書あそんてをり。今もこのぬく
株むかひくちたぬり。

梅はさの木もむこのぬめむむむむむのようつりてたふ
わひさる。此ふちり候もふ出ぬまのよまでいせをぬす
山河をよめさふ。さうふのこつてはたぬすむこーんからぬり。

水の急みでのいはれわつらふふままで。はたなる海原をく見
まとして。
あみどりらぐきとらごきとを神凡あはる候きてふぬ
とせぬやも。候つこひこつ山とさふふあり。湯山ユヤキとさふてん
たれをゆく。
あひむうひあつ三山とさふこびもに交もとれいあひむ
くいん。湯山とさふとこ候とる。あな池のみぎと成す地。
濱坂ハヒサカとさふふ出さず。稲ね川のまをとりて。ほの時を
らるふあふふへりぬ。

衣川長秋

美德山記行

柞葉の伯耆國久米郡倉吉をむろー山名氏のをりー不ふ
て。今ハ因幡伯耆二玉以政事あづらやせ給へる。荒尾主の志る
とろちあり。此里の長^{ヲサ}は春信。遠坂元貞も。うねてあひい
まやせまゝ入りし。うらび元貞の毛やふ物し。ありは。附。
英徳山ふまのせんとそえ貞をそと先。芦村隆信。山縣良近。
辻春信をひきまひて。之存の世日あり六日。日倉ををひつ。
さとのうらびふ住吉神社あををうみす。

あつらもは。信まらうらふく山の坂坂もあわれす。この
えの神。とよみく。持こよをを。あつら。小田のぬら。成

ゆえ竹田川の堤をたがいで。川をさうして大糸村ふらふ。
此里をむく。かめから大糸実盛がをり。一里をさ。里を
たがいて山のももふ。志のぶるとゆふ志のぬれう。はま
あるあや。見るあや。今一のふらり
植衣ふあさ なたのぬれさ。このむさ
ふ。ちや。なれ。ふのよふ植葉おきて。ちや。かきて。まば
ーやき。ひて。たのもく。さよ。なれ。かき。

ちりて。ちひ。このまねを。まき。様を。この春
の山ふみ。とよ。人。ま。ゆ。三。の里ふ。り。ぬ。念。まよ
ア。ま。二。里。ま。ち。此。里。よ。温。泉。三。十。む。か。り。つ。て。
は。ま。ち。あ。ふ。ゆ。ま。れ。と。ふ。か。く。ま。り。あ。ま。れ。ば。

湯あみ。ふ。ま。る。人。も。ま。れ。あ。と。さ。音。ま。ら。ふ。り。て。や。と
む。ち。ざ。り。お。た。て。ゆ。づ。カタシバ 片。葉。の。り。よ。と。ら。ま。て。う。れ。ひ。養。て
ゆく。ま。の。花。乃。こ。ひ。ま。あ。ら。成。ん。て。よ。ん。

ゆ。ま。の。花。乃。こ。ひ。ま。あ。ら。成。ん。て。よ。ん。
の。む。坂。中。村。を。ま。れ。合。谷。村。ふ。ら。ふ。ガフダニ 此。と。ら。ら。ハ。何。村。形。あ。ま。ず
負。山。の。ふ。も。と。あ。や。川。を。ひ。の。た。を。ゆ。な。ち。ふ。山。の。花
た。れ。を。ま。ま。さ。ま。り。て。ん。ま。

岩。根。む。む。を。さ。か。み。ら。ず。の。あ。ま。ふ。を。む。す
び。つ。ゆ。お。そ。ざ。ら。あ。ま。い。な。り。な。れ。は。よ。ん。
ひ。り。あ。れ。あ。ま。い。山。の。ま。れ。あ。れ。い。

と見えふなり。うへひまのさくら花をまじりて

こころむおほふ山ふのさくら花のさくら花を

まつらね。山ふのさくら花。合首より十町ばかりあり。
之勢ミサより二里ばかりあり。むらうや傍村あり。こころを
かへまつふ之傍村あり。輪光院の舟月傍よりしてまへ人
あれ。まよりてまごうやまひて。釈迦堂のおほい川
をまごうやまのさくら花をまじりて。うづら坂とひま坂ふら坂。うづ
らあつハ木の根をとりてのさくら花。小社あり。持てをこて
勝手社あり。巖の上ふをまじりて。へらさふ花をまじり。ま
こころのさくら花。ひまふら坂のさくら花をまじりて。か

らうらうのさくら花。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
山とむらう。優婆塞ウパサヤク役小角コカクがひまふら坂。まじりて。まじりて。
清ミ獄メケをうづらう。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
神ミコを。美古母ミコモ理リと訛ヨコヤ。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
をまじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
壺のさくら花。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
えをまじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。

あつこころをまじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。

き水分の神。しよあてをたごーやまひひてむげんてよあ。
こよーのまじしつそ英^ニ住^トのゆびくくくわも花をみ
くまの神。

みよーのせれおもごまさうつぎれがあうげまこの
山こくろ花をこよりのせれといふと丁坂の敷をきりて。
種つき堂といふ堂の前をきりて。るの脊骨牛の脊といふ。
ひみじれいふのよまをきりて。岩窟^{イハマ}のうちふをあり。せこそを
すぎして投入堂といふ堂あり。花^ザ王^ワ槍^ツ祝をまつり此^コ所^ノま
で傍坊より八町あり。堂のこれこのひを不のうへすまでゆり
てんらこちふうー移るひみじれいを母の堂のよおふひ

うやして。あまふの言ふのせれをれば。此堂ふのがせゆく
人まれあり。おふひのまのほをあらん。あまの谷れそ
こはえおろまふあれこくみあーふひて。あまもそん
めばよりあふ。後^ズ者^サのひつれあふのまじしん。穢^スのひを不をつ
をひあり。まに。うーまのまじしん。まじしん。まじしん。良
近^チらまもえ勢で。ひを不のうへす。げひをぬり。今うをあれこ
まもむうーま男山あり。まおいきれがさうゆーる。あや
ふられがゆらご。まごーやまひひて。あま。あま。あま。あま。
しよ。あまをむま。あまひもあま。あま。あま。あま。あま。
でろくまてきたに。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

きむわらふりし。なかにあひつゝ人いへま。まはりのゆゆのそら
しれよ。いきましつゝやてちがひいしはれど。あやしめいひのれど
うひつあつこふ。降行あつちつあつちがひしはれど。あつち
らふよ。あつちの本根をいへ。いへあつちがひいしはれど。あつち
と今やいしはれど。あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。
ひね。いしはれど。いしはれど。いしはれど。あつちがひいしはれど。
て倉吉のこやふきて。人いへ。あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。
ほのこやふきて。

于このねがひあひひふあつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。
あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。
あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。あつちがひいしはれど。

年の三月衣川乃長秋一書。

附録 終

○附録英海山記の

此二記りもと記し考心てふ志あり
考案下板小意已し勢

秀雄

衣川藏版

文政六年未正月發行

京三條通寺町西八町

弘所書林

河南儀兵衛

